

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	「ことば」と「心理」の考察：否定表現についての一考察〈卒業論文要旨〉
Author(s)	浮田, 三郎
Citation	広大言語, 11 : 15 - 16
Issue Date	1971-12-06
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046365
Right	
Relation	



論 卒業論文要旨

「ことば」と「心理」の考察 — 否定表現についての考察 —

浮田 三郎

たいそうな題を付けたものだと思さながら身震いがする。そして、副題を「英語の否定表現についての一考察」とすべきであったと思う。どちらにしても、内容は、おそまつなものである。否定表現については、今までも卒論に何人か、取り上げておられるが、僕は僕なりに考察してみれば、何か出るだろうと思ったのである。あまりにも僕なり過ぎたのである。

まず、なぜこの後で身震いまでしなくてはならない様なテーマを選んでしまったのか、と云ったモチーフを序で述べることにした。そして、この否定表現への探追により、出来れば、人間の心のひだのヴァイブレーションにふれ、ことばの本質をも究めんと目したのである。

I章では、この小論でテーマにした「ことば」と「心理」について、ここではどの様な意味で用いたか、簡単に定義付けをしてみた。II章では、III章への足がかり的に「否定」という用語の定義付け、更に文法書、その他の参考書を参照しながら、一般的に否定表現の形式について述べてみた。

II章に於いて、T. WilliamsのGlass MenagerieをTextとして、その中で出て来る否定表現について、具体的に考察を試みたのである。話者と否定表現、否定表現と聞き手の関係。性格、あるいは精神的動揺と否定表現の関係。その音調と心理の関係等々。と、ついに、この非常に主観的で非体系的な小論が出来上ったのである。

なお、なぜこの戯曲を用いたかという、それは話しことばがより自分たちに身近に感じられると云うこと、更に、この戯曲に大そう興味を持っていたと云うことからである。

< 参考文献 >

• TEXT

- The Glass Menagerie ; Tennessee Williams.

• 参考書

- 文法の原理 ; イエスベルセン
半田 一郎 訳

- NEGATION IN ENGLISH AND OTHER LANGUAGES ;
O. JESPERSEN

- 言語心理学 ; 入谷 敏男

- Question-Box Series : XII. Narration, Word Order, Negation

- 否定、疑問、強意、感情の表現 ; 石橋 幸太郎 編

- 英語の語法 — ; 池田 義一郎

- ・ 言語の研究 ; 泉井 久之助
- ・ うそと心理学 ; 相場 均
- ・ 序説^のことばの原理 ; 井上 増次郎
- ・ その他

THAT の 研 究

(他の関係代名詞との関連の中で)

前 書 き

多 賀 良 江

古代英語では、関係代名詞は that だけだったが、チョーサーの時代までには、whose, whom があらわれ、やがて who も that と共に使われるようになった。それとともに、which も関係代名詞として用いられるようになり、who, which は文学語、that は口語と区別された。その後、口語英語を文学に使用しようとする運動によって、that も再び文学に用いられるようになったのである。

そういう関係代名詞の歴史をざっと概観しただけでも、現在でもまだ関係代名詞の用法は不安定なのではないかと疑いをもちたくなる。その中でも特に用法が特殊な that を中心に現代の関係代名詞、who, which, that, 接触節の用法上の区別をとらえ、そこに、生きた英語の変化を見ようとしたのである。

序 論

I アメリカの雑誌 LIFE を資料とした。

II that, who, which, 接触節をぬきだした。

III 本論 I では、that を中心として関係代名詞の用法の変化を見、II において、従来 that が好まれてきた箇所に、現在も that が好まれているだろうかという事を数値と実例をあげながらみていく。

本 論

I that, who, which, 接触節の一般的傾向

(1) that, who, 接触節の一般的傾向 —— 先行詞が人(動物)を表わす場合。

(2) that, which, 接触節の一般的傾向 —— 先行詞が人を表わすもの以外の場合。

II who, which より that が好まれる場合

(1) It is (was) の後

(2) 不定代名詞、殊に any-, every-, no- の複合詞、all の後。